第二節　自閉症の人の将来と今後−福祉から学校教育への意見

1．星が丘寮に入所してくる人たちの状況

星が丘寮は，60名定員の成人期の自閉症の人たちのための居住型の施設です。入所時点において，彼らの多くはごく基本的な身辺処理技能が身に付いていませんでした。介助しなくてもできるようになっている場合でも，肝心なところが抜けていたり，個々の技能としては身に付いているのに，実際の場面ではそれをうまく使うことができなかったりしていました。

その他，地域の中で暮らしていくうえで当然身につけておかなければならない，基本的なルールや人との付き合い方も適切には身に付いていませんでした。コミュニケーションに関しても言葉の理解といったことに混乱を示していたり，いやだということを表現するときも，伝えるのではなく拒否行動やかんしゃくを起こしていました。働くといった概念や余暇に関する技能を身につけている人はほとんどいませんでした。

星が丘寮が居住型の施設ということもあるのでしょうが，入所してくる人たちのほとんどが全体的に身勝手とも思える行動が中心で，二次的，三次的な不適応行動を示していました。しかも，他害行動や自傷行為を示している本人も悲惨ですが，その家族も彼の行動障害に振り回され同じようにきわめて悲惨な状況を示していました。

2．幼児期・児童期から身につけておいてほしいこと

自閉症の人たちに対して，適切に学習させていく取り組みを行わないと，自分から必要なことを身につけていくのはなかなか困難です。ということは，星が丘寮に入所してくる人たちのような状態を示しているということは，それまで彼らが受けてきた学習の結果であるといえます。

これからの彼らの長い人生を考えたときに，一人でできることは他人の手を借りないで，必要に応じて適切な支援を受けながら，自尊心をもって自立して暮らしていくことが重要だと思います。

そのためには，最低限，以下に述べることを幼児期から身につけておいていただければ，青年・成人期になったときに，行動障害を示したりそんなに混乱しないで暮らしていけるのではないかと思います。

（1）一人で身辺処理をできるようにする

自分の身の回りのことが，他人に依存しないで一人でできるということは，周囲の人が絶えず見ていなくても良いですし，彼ら本人にとっても他人から介入されるという「うっとうしさ」から解放されることにもなると思います。生きていく力をもたせたい，育みたいと考えたときに，身辺処理領域を身につけさせることは重要です。

特に，彼らは，模倣する力も弱いし般化することも苦手です。そのため，小さいときからその人の能力・状態に合わせて，重度の知的障害を有する人たちだと多くの部分を手伝ってあげなければならないこともあるかもしれませんが，可能な限り一人でできるように積み上げておく必要があると思います。

一人でできることをいつまでも手伝っていると，自立ということにはつながっていきません。手伝うことを徐々に減らしていき，教え残しがないようにこつこつと積み上げておくことで，一人でできることが増えていきます。また，補助具や『どのように行うのか』『その順番は』『どれくらい』といったような情報を彼らに分かるように伝えることで，自立的に行えるようにする工夫や配慮もしていきます。

一人でできればできるほどチャンスは高くなります。

（2）お手伝いをできるようにする

身辺処理行動もそうですが，お手伝いをするということも家族と一緒に家庭で暮らしていくときに，必要な活動として基本的なものだと思います。お手伝いはその内容によって，歯を磨くとか大便の後始末をするといったことよりも，具体的で教えやすいということもあります。

青年・成人期になって，お手伝いを家族の中での決められた役割として行うことができるようになっているということは，大人としての自尊心にもつながってくるのではないかと思います。また，家庭や学校で一人ひとりの機能レベルにあった役割を行うようにしておくことで，自信をつけることにもなると思います。役割活動ができるようになることで，私たち関わる側も教育や指導の成果としてとらえることができます。また，何をしてよいか分からない時間を減らすことにもなり，不安定な時間を少なくすることにもつながってきます。

（3）余暇時間を一人で過ごせるようにする

余暇活動が身に付けば，家庭での自由時間を有効に使うことができたり，学校での休み時間を安定して過ごせるようになります。

彼らは，遊ぶ道具を見てその道具の意味することを，教えられなければおもしろさをキャッチすることができません。さらに，これをするのはおもしろいということや，誰かと遊んでおもしろいということを分からせるということも大切だと思います。また，その活動が好きで行いたがっても，終わりをきちんと教えておく必要があります。終わりをきちんと教えられなかったために，日課を適切に送れなくなってしまった人もいました。

得意なこと，興味をもっていることに着目し，日課の流れの中で一人で楽しめ，集団でも楽しめるように，そして，これからの長い尊厳ある人生を豊かに過ごせるようなものを，しっかりと身につけさせておくことが重要だと思います。

（4）コミュニケーションしようとする心と力をつける

私たちは，今まで自閉症の人たちに表現する力を育てていくのではなく，指示に従うことを中心に働きかけてきたように思います。その結果，彼らは，機能レベルに応じた表現手段をもたないまま，例えばかんしゃくでしか訴えることができないといった状態で青年・成人期を過ごすことになってしまっています。理解することに関しても，彼らが理解しているかどうか確認しないでおいて，分かっているだろうという思いこみや前提で，言葉を中心にして関わってきていることが多いのではないでしょうか。そして，彼らをひどく混乱させてきたように思います。

彼らを理解した教育や指導を行っていくには，彼らの気持ちやコミュニケーションの力を把握することと，こちらの期待していることを適切に伝えるための工夫や努力が必要だと思います。そして，彼の今持っている技能を使って，コミュニケーションの力を高め，コミュニケーションの便利さ，楽しさ，誰かと伝えあいたいという心を育て，実際場面で使うことができるコミュニケーションシステムを身につけることがとても重要だと思います。

（5）スケジュールに従うことができるようにする

青年・成人期になって在宅が不可能になる原因に，スケジュールどおりに暮らせないで自分の都合の良い暮らし方しかできなくなっているということがあります。また，彼らに分かるようにスケジュールを示していないため，毎日その時にならないと何があるのか分からないとか，終わりがいつなのか分からない状況になってしまっており，混乱と不安の中で彼らが暮らしていくことになってしまっていることもあります。

できるだけ他人に依存しないで一人で日課に取り組めるようにしておくことで，行動障害を防ぐことにもなるし，なりよりも混乱や不安を感じないで安定して生活に取り組んでいけるようにもなると思います。

（6）できるだけ質の高い作業技能を身につける

成人期に充実した生活を送るためには，生産活動に従事することだと思います。仕事をとおして仲間との関係もできますし，物事をやりとおした実感をもつことで自信もついてきます。仕事ができることで他人からも評価されます。

そのためにも，小さいときからその人の機能レベルに応じた技能を身につけさせるための教育や指導が必要になってきます。思いつきやその場限りの細切れの教育や指導では，決して質の高い作業技能というものは身に付かないと思います。小さいときから将来を見通した課題学習や適切な育ちをとおして，こつこつと積み上げていくことで育っていくと思います。

（7）できる限り限り適切な社会的行動と対人行動を身につける

施設に入所してくる人たちの多くは，基本的なルールが理解できていなかったり行動障害を頻繁に示しています。これでは，地域社会の中で当たり前の生活を送ることが困難になってしまっています。

将来問題になりそうな行動を早い時期から行わないようにしておくことと，社会的行動のルールを教えておかないと，自助能力の発達につながらないばかりか，結局は家庭や地域社会での生活ができなくなってしまいます。

3．終わりに

以上述べてきましたことを，自閉症という障害のある人たちが力として身につけていくためには，自閉症という障害特性と一人ひとりの機能レベルと得手不得手といったようなことを適切に把握することをしないでおいて，彼らへの有効な教育や支援といったことはあり得ないのではないかと思います。そして，幼児期から成人期まで，それぞれのステージにおいて教育，療育や支援にあたる人たちが，実践してきたことを次に関わる人たちにしっかりと引き継ぐ必要があると思います。

働きかける側にアイディアの一貫性と適切な方法論もなく縦の連携もなされていないと，彼らにとっては働きかけられたことがバラバラな状態で栄養になっていないため，教育や療育に多くの時間をかけているのにもかかわらず，結果としてできなさと行動障害を示してしまっているということになってしまいます。

Ⅰで述べましたように，星が丘寮に入所してくる人たちの行動障害のひどさと家庭の悲惨さを目の当たりにしたときに，幼児期・児童期にどのような療育や教育を受けてきたのだろうと思ってしまいます。そして胸がつまってしまいます。自分が関わった，もしくは自分が勤務している学校が関わった子どもたちの成人期の姿を見てほしい。そして，どのような働きかけが彼らに対して有効であったのか，またはそうでなかったのか，自分の目で見て具体的なレベルで確認していただきたい。確認できたことを，自分たちの実践にフィードバックしていただきたいと思います。このことを抜きにして，責任ある教育は展開できないのではないかと思います。

もう，自閉症の人たちとその家族に対して，様々な混乱や悲惨な結果を残さないために，自分たちの行ってきた実践をきちんと総括し，彼らの尊厳ある人生をハッピーに暮らしていくための基礎作りをしていっていただきたいと思います。